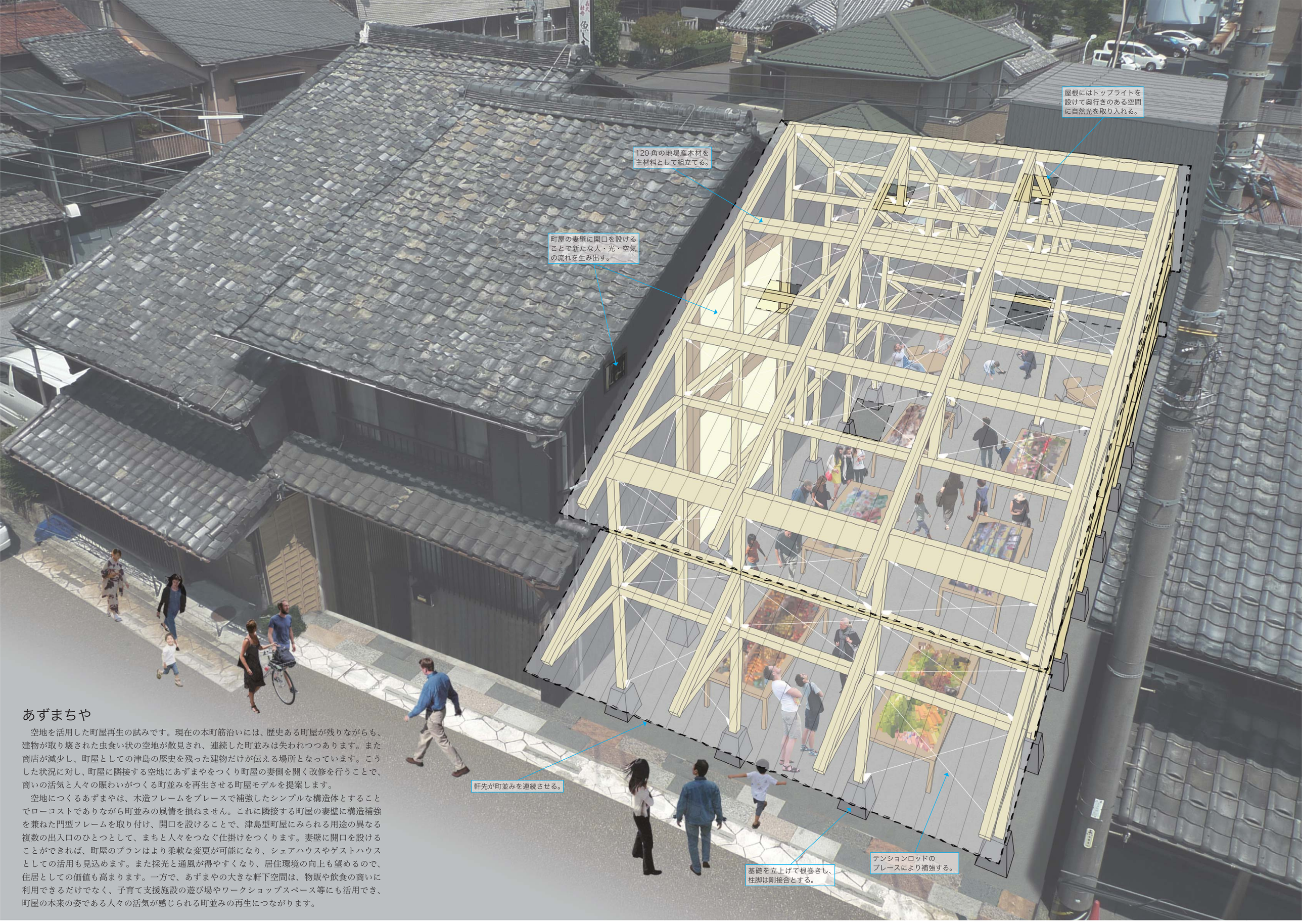
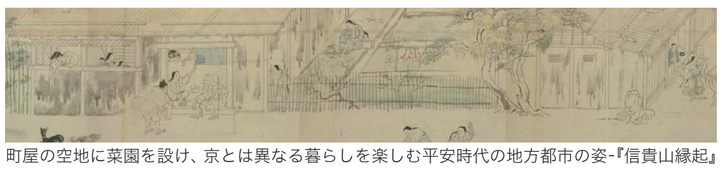


あずまちや

空地を活用した町屋再生の試みです。現在の本町筋沿いには、歴史ある町屋が残りながらも、建物が取り壊された虫食い状の空地が散見され、連続した町並みは失われつつあります。また商店が減少し、町屋としての津島の歴史を残った建物だけが伝える場所となっています。こうした状況に対し、町屋に隣接する空地にあずまやをつくり町屋の妻側を開く改修を行うことで、商いの活気と人々の賑わいがつくる町並みを再生させる町屋モデルを提案します。

空地につくるあずまやは、木造フレームをブレースで補強したシンプルな構造体とすることでローコストでありながら町並みの風情を損ねません。これに隣接する町屋の妻壁に構造補強を兼ねた門型フレームを取り付け、開口を設けることで、津島型町屋にみられる用途の異なる複数の出入口のひとつとして、まちと人々をつなぐ仕掛けをつくります。妻壁に開口を設けることができれば、町屋のプランはより柔軟な変更が可能になり、シェアハウスやゲストハウスとしての活用も見込めます。また採光と通風が得やすくなり、居住環境の向上も望めるので、住居としての価値も高まります。一方で、あずまやの大きな軒下空間は、物販や飲食の商いに利用できるだけでなく、子育て支援施設の遊び場やワークショップスペース等にも活用でき、町屋の本来の姿である人々の活気が感じられる町並みの再生につながります。


町屋の空地に菜園を設け、京とは異なる暮らしを楽しむ平安時代の地方都市の姿-『信貴山縁起』

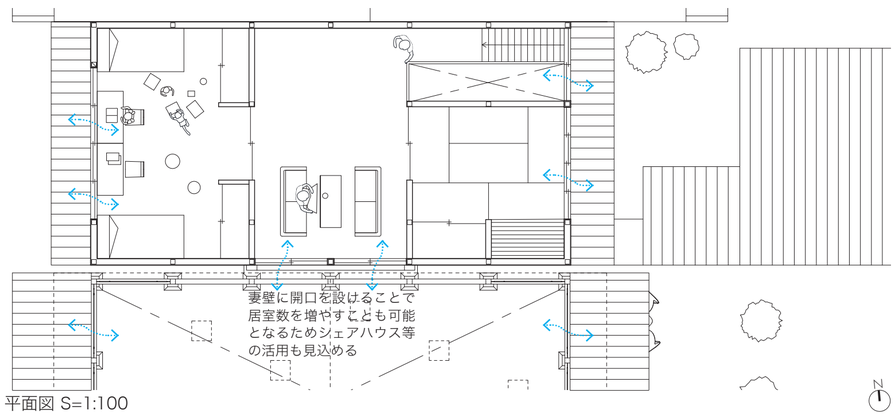
提案想定敷地

配置図 S=1:2500

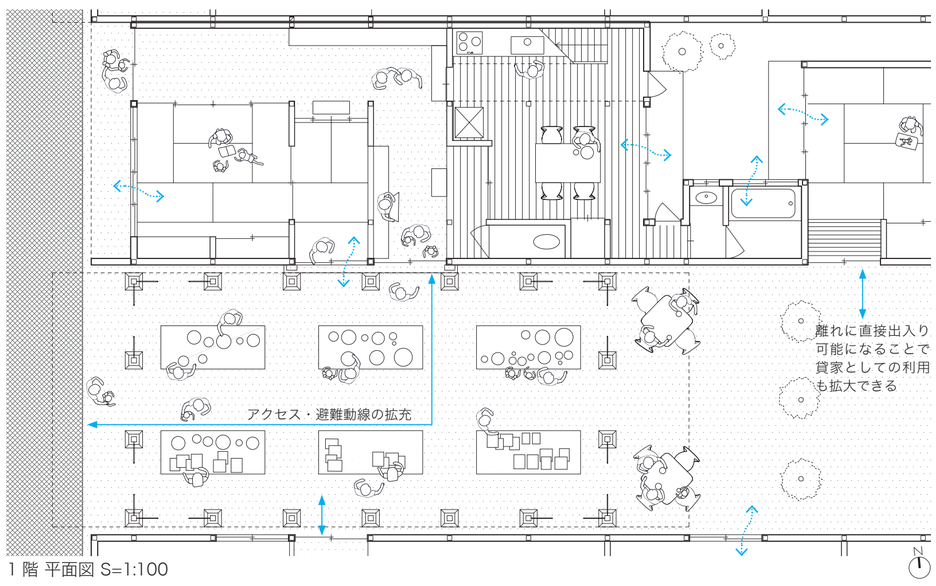
隣接する町屋の商店の一部としてのあずまやの利用。町屋本来の商いの賑わいを津島の町屋に取り戻す。

町屋を子育て支援施設としてコンバージョンした際のあずまやのイメージ。多世代が住まう町をつくる。

町屋コミュニティの核となる自宅でも職場でもない集いの場所＝サードプレイスとしてのあずまやの利用。

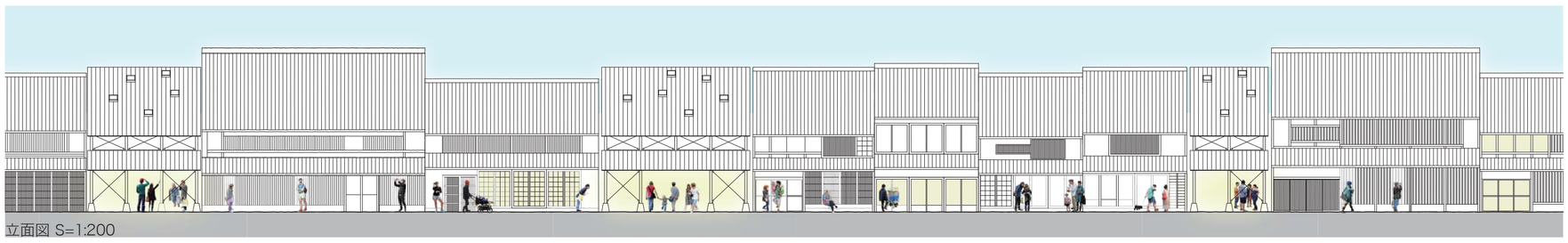


2 階 平面図 S=1:100



1 階 平面図 S=1:100

断面図 S=1:100


立面図 S=1:200